

平成28年度一般会計決算を認定

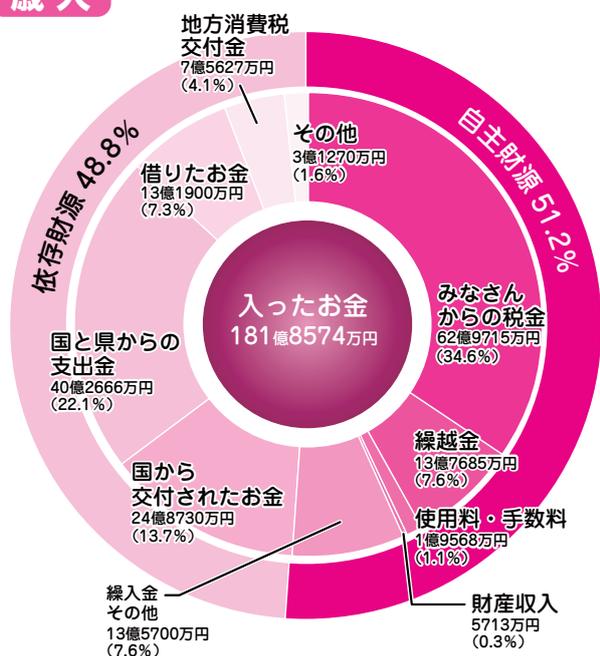
歳入総額 **181億8574万円** 歳出総額 **168億7878万円**
 (前年度比2.2%増) (前年度比2.8%増)

実質収支額 (決算剰余金) **9億1059万円**

平成28年度一般会計の決算状況

9月定例会

歳入



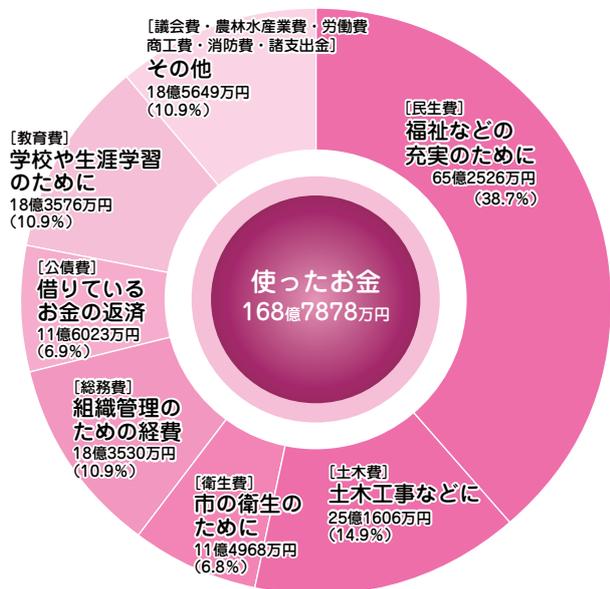
歳入・歳出

歳入では、自主財源の根幹を占める市税(みなさんからの税金)は、前年度比0.3%の増となりました。予算現額に対する収入率は98.4%。

歳出では、人件費・扶助費・公債費(義務的経費)の歳出に占める割合は前年度比0.8%増の44.8%。予算現額に対する執行率は17.3%減の91.3%でした。

平成29年9月定例会は、9月4日から9月29日までの26日間の会期で開かれました。市長提出議案は、平成28年度一般会計・特別会計・水道事業会計決算の認定8件・水道事業会計未処分利益剰余金処分1件、条例案2件、工事請負契約の締結1件、市道路線認定・変更・廃止3件、平成29年度一般会計・特別会計・水道事業会計補正予算9件の合計24件と人事案件1件でした。一般質問は、11人の議員が市政をただしました。

歳出



一般会計・特別会計(水道会計を除く)歳入決算合計は前年度比0.8%増の320億7875万円。歳出決算合計は同比0.6%増の298億2041万円、財政規模は過去最高となりました。

水道事業会計決算は収益的収入が11億7004万円。支出は10億2305万円。良好な経営となっています。

一般会計・特別会計の決算状況

財政指標

自主財源比率	51.2%
経常収支比率	91.2%
財政力指数	0.712
公債費比率	4.8%

積立金(貯金)と市債(借金)

基金残高	29億8881万円
市債	134億2773万円
債務負担行為	61億4927万円

平成28年度その他会計の決算状況

(単位 円)

会計名	歳入決算額	歳出決算額	実質収支額
国民健康保険特別会計	8,296,642,355	7,827,818,812	468,823,543
後期高齢者医療特別会計	508,883,780	504,461,155	4,422,625
介護保険特別会計	3,464,450,684	3,115,456,313	348,994,371
農業集落排水事業特別会計	31,042,967	29,282,564	1,760,403
公共下水道事業特別会計	1,255,975,200	1,161,943,770	94,031,430
幸手駅西口土地区画整理事業特別会計	336,022,075	302,673,115	33,348,960
水道事業会計(収益的収支)	1,170,036,160	1,023,050,529	146,985,631

質疑

一般会計決算審議
本会議質疑内容

集会所整備事業補助金996万円の内訳と九郎右工門集会所補助金376万1千円の根拠について。

答弁

内訳は、1カ所目が、南2丁目2区集会所太子会館修繕事業で補助金額は100万円、2カ所目が、上吉羽集会所改修整備工事で補助金額は350万円、3カ所目が、浮合集会所外壁塗替工事で補助金額は12万5千円、4カ所目が、上戸地区集会所改修工事で補助金額は157万4千円、5カ所目が、九郎右工門集会所移転整備事業で補助金額は376万1千円です。

次に、九郎右工門集会所移転整備事業補助金376万1千円の根拠については、国土交通省が実施いたしました首都圏氾濫区域堤防強化事業に伴う江戸川堤防強化対策工事のため当該集会所が移転を余儀な

くされた集会所移転事業に対して補助したものです。

補助金額の根拠については、移転新築に係る事業費総額が消費税を含めまして1265万7600円となりまして、このうち、事業主体である九郎右工門自治会へ国から支払われた移転補償費513万4938円を差し引いた752万2662円の2分の1に相当する376万1千円を補助したものです。

質疑

幸手にぎわいの街プロジェクト事業の成果から生まれる結果と、この事業の継続性について。

答弁

1つ目は、食をテーマとした幸手宿うまいもんまつりを幸手市商工会に対する補助金事業の実施をしました。

2つ目は、食資源の基礎調査及び新グルメの開発で、食に係る新たな魅力の創出や地域ブランドづくりを図るため、市内の飲食店や食資源の調査と試作品の開発を行ったものです。

3つ目は、日本保健医療大学の

学生によるワーキンググループにより市内飲食店の試食をしてもらい、ランチを楽しむ店舗を掲載した「幸手たべある記」の冊子を作成しました。

4つ目は、自転車によるレンタサイクル用自転車を購入し、社会実験としてスタンプリーを9日間（参加者256名）にわたり実施いたしました。

5つ目は、日本工業大学の学生の協力を得て、市内のサイクリングコースの設定やトイレの利用に協力いただける自転車の立ち寄りスポットの桜観光駅選定を行いました。

事業の継続性は、食と自転車という新しい視点でのまちのにぎわいを見ることができ、今後のまちの活性化につながる事業と考えます。

質疑

予算執行率91・3%、これはどれぐらいの執行率が望ましいか。監査委員のほうでは、できるだけ早く、予算が余りそうであれば補正予算で対応するようにという意見を付されておりますが、91・3%

に対する評価、見解について。

答弁

予算現額と支出済額との差額は16億999万1118円となっておりませんが、このうち翌年度繰越予算額は10億6858万8千円で、主な事業は、駅前上化及び自由通路整備事業や古川橋架替工事など、重点プロジェクトに位置づけられたものです。このことから、平成28年度決算において翌年度繰越予算が多かったため、予算執行に影響が出ているものと考えております。しかし、執行率は高い数値で結果が出ていることがよいとの認識は持っておりますので、適正な財政運営に努めてまいりたいと考えています。

人事案件

固定資産評価審査委員会委員

荒川 琢哉 氏

を選任することに同意しました。

反対討論

大平泰二

市の財政状態は、平成20年当時の監査委員が指摘した通り、大変厳しい状態となっている。例えば、市民税の納税義務者数は20年と比較して、個人では1053人、額にして5億2154万円のマイナストとなっている。その結果28年度決算の積立基金はゼロとなっている。歳出の問題では、橋上駅舎と西口土地区画整理があります。総工事費は、143億800万円と、市民一人当たり28万6千円の莫大な負担となるもので、財政破綻を招くもので、容認出来ない。

賛成討論

小林順一

公明党が提案してきた子育て総合窓口が開設され、妊娠、出産、子育てに関する総合的な相談支援をワンストップで行えるようになった事は、子育てに大きな力と大変評価するものです。地域の水路の草刈りや泥上げなど地域活動を行う団体に対して補助金は地域のコミュニティづくりの一助となり評価します。

無料で学習の機会を提案するアフタースクールを小学校3校から9校に拡大は子どもたちの学力向上に大きく寄与するものである。

賛成討論

木村治夫

評価すべき事業として、地区市民センター、放課後児童クラブの設置、毎日一万歩運動教室の実施、幸手産特別栽培米の販売促進、商工業振興事業の実施、回遊型観光の推進、圏央道側道の開通、自主防災組織への補助、「さつてアフタースクール」全小学校実施など。今後、重点プロジェクトの実施にあたり建設事業債の発行が増えるが、地域経済を注視しつつ国の交付金を十分活用し、財源と財政規律の確保を図り、市民との対話を基本とした市政運営を要望する。

賛成討論

松田雅代

第二保育所建設や幸手小学校大規模改修、古川橋架替、西口区画整理など、大型事業が滞りなく執行されたことを評価。

しかし、厳しい財政状況の中、不用額が前年度比18%増となり、執行率は前年度の93%から91・3%に減少。財政力指数が前年度比0・07ポイント減の0・712となったことにはさらなる改善を。また、補助金交付の不適正事務処理問題については、根本的原因の究明と調査結果の報告、再発防止を強く要望し賛成討論とする。